

平成28年度 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会

《 開催地市長歓迎挨拶 》



皆さんこんにちは。稚内市長をしております工藤と言います。

平成28年度日本海にぎわい・交流海道ネットワーク総会の開催にあたりまして一言ご挨拶を申しあげさせていただきます。

本日は、平成28年度の総会という事ではありますが、我が街では平成13年、そして20年に続きまして3回目の開催という事ではありますが、開催地として心から感謝を申し上げますとともに、遠路この地にお出でをいただきました多くの皆さんには心からご歓迎を申し上げたいと思っております。また、本ネットワークが港湾を核とした日本海沿岸地域の交流の拡大に大きな貢献を果たされている事に対しましても、この場をお借りして心から敬意を表したいと思えます。我が街の話に若干触れさせていただきますと、三方を海に囲まれている、東はオホーツク海、西は日本海、そして北は宗谷海峡というところに囲まれています。日本最北の重要港湾、稚内港。そして、オホーツク海側には地方港湾、宗谷港とそれぞれ有する港湾都市でありまして、また43キロ北に異国でありますサハリン州を望むそんな国境の街であります。その異国とは対岸のコルサコフ港と航路で結ばれておりまして、人の流れもちろんでありますけれども、あるいは物、さらには情報というものの交流を続けておりまして、今月末この北海道の北の九つの街が中心となって、道北の物産展というのを毎年行って今年が4回目であります。また今年もこの北海道とサハリンの交流に貢献したいと思っております。稚内港におきましては、対岸のサハリン沖で開発が進められており、石油天然ガスプロジェクトの採掘等に関しまして、その支援基地の形

成を目指したいという意味で港湾計画も改訂をしたところではありますが、今、日本政府が本年9月にロシア経済分野協力担当大臣を新設するなど日露の経済協力が一層進展していく中、この地にあつてその懸案事項の中で稚内港が国に貢献できる、そんな何か可能性を求めているというところでもございます。さらには、この地域、今日もちょっと寒いんですけれども、風が大変強いという特徴を持っており、それが逆に国から特定風力集中整備地区というものの指定を頂いておりまして、現在でもこの街で74基の風車が稼働しております。さらに本年3万kwの風車の建設が始まっておりますし、一方で今申し上げた風車の特徴と風の特徴というものをめぐって国のご支援を頂きながら、今、約100キロの送電網の整備を進めております。これらが並行して様々な分野で進むという事になりますと当然稚内港の利用が一層促進されるという事も期待しているところでもあります。そんな事も含めまして、今日は「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」を通じて、ぜひそれぞれの地域の一層の発展、そしてご参加の皆さんの今後益々のご活躍を心からご祈念を申し上げさせていただきます、開催地を代表して歓迎とお礼のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い致します。